

## パラスポーツ 理解深めよう

### 日福大「金」中嶋さん講演

県内を中心に2026年に開かれる第20回アジア競技大会に向け、パラスポーツへの理解を深めようと、日本福祉大学(美浜町)で

競技者らの交流会があった。元パラリンピック選手の講演もあり、オンラインを含めて学生や地元スポーツクラブ会員ら90人が聴き



オンラインでタイのパラスポーツ競技者の状況を聴く中嶋茜さん(美浜町)

入った。

「障害があっても積極的に行けるスポーツがあると知ったとき、世界が広がる感覚だった」。今年10日夜、母校の日福大で語ったのは、12年ロンドン・パラリンピックのゴールボール日本代表として金メダルを獲得した中嶋茜さん(31)。岐阜県中津川市出身で、中学生のときに盲学校でゴールボールを知り、大学4年生でパラリンピックに出場した。

昨夏は東京パラリンピックが開かれた。「パラスポーツをさらに知ってくださった人が、たくさんいる。障害はもちろん、年齢や性別、国も超えられる。スポーツを通じて、いろんな立場や違いを理解し合えるようになれば」と話す。

障害者スポーツに詳しい日福大の藤田紀昭教授は、スポーツ庁調査のデータなどを紹介。国内にいる成人の障害者で週1回以上スポ

ーツをしている人の割合は13年度の18・2%から21年度は31・0%まで増えた。だが成人全体は21年度が56・4%。「障害がない人にくらべるとまだまだ少ない。

アジア大会を機にスポーツのある生活をすべての人に届けられるといい。私たちにできることは何か考えていきましよう」と呼びかけた。(上山浩世)